曽於文藝（うたごよみ）

題字　末吉文化協会会員　瀬戸口　淳民氏

俳句

末吉俳句会

城址は春の真ん中青き空　古藤　まゆ美

忠霊塔若葉の風に包まるる　西村　セツ

日当りて葉脈透くる若葉かな　永里　瑞代

大隅俳句会

従兄弟らと年忌法要花の雨　岩重　みどり

春一番見知らぬバケツ庭にあり　逆瀬川　節子

軽やかにペダル漕ぐ子や花菜風　福村　よう子

短歌

末吉短歌会

ゆで卵十個がつるんと剝（む）けた朝
桜前線すぐそこにあり　宝蔵　弘二

「たら・れば」を言ふのはよそう結果論は
空しき虚構　キラン草咲く　森岡　ちどり

日常の習慣のごと忘れ事
さがし物あり　雪柳まぶし　平田　美穂子

大隅短歌会

人の道車の道よと枝打たれ
里の木蓮天までのびる　竹内　娃子

追われいる如く生きゆく日々なれど
短歌（うた）に牛飼い心充ちおり　安藤　フヂ子

終の時きっと想い起こすだろう
生きに奪いし数多の生命　広川　ミドリ

財部短歌会

先生はこの世に数多存すれば
裏金手にする人も先生　児玉　次雄

両の手をスマホに踊らせ孫いはく
「グローブ三個届いてゐるよ」　杉村　リカ

災害時過去帳むねに先ずいだき
避難せよとの母の言の葉　井上　澄子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

久（さし）かぶい　家族（けね）で段取（だんど）っ
遠方旅行（とおかたっ）　浜田　一好

血統（ちすつ）じゃろ　家族（けね）ん衆（し）ずるっ
上戸揃（じょどそろ）っ　胡摩ヶ野　べぶまつ

家族（けね）じゅして　食飯（くめし）や美味（うんめ）ち
爺（じ）は二杯（にへめ）目　桐野　奈世

初孫（はつまご）ん　入学姿（にゅうがっすが）て
家族涙（けねなん）だ　高瀬　博多夜舟

家族（けね）ち言（ゆ）が　知れったんして
一人（ひと）い暮（く）れ　西留　辰子